

目標を持って一人では達成できない喜びを



左から久山町長 西村 勝、株式会社HiIRAKU代表取締役 廣瀬 俊朗氏 久山中学校にて

豊かさを持ち帰る町

西村 昨年は、ラグビーワールドカップフランス大会でした。日本代表は決勝トーナメント進出にあと二歩というところで惜しかったですね。

廣瀬 最後の試合は面白かったですが、欲を言えば、もうひとつ上にいけたら良かったですね、総合力で一歩及ばなかったかなと。

西村 ただ、南アフリカ大会以前は、これほど注目されていませんでしたよね。

廣瀬 そうですね。あれから8年、順当に進化していると言えますね。

西村 廣瀬さんとうろくしているいろいろとお話するように変わったのは、同じ大学院出身というきっかけもありましたが、同じ講演会でお互い講師として顔を合わせるようになってからですね。

廣瀬 はい。西村さんは、出会った時からバワフルで、町に強い思いを持っている方という印象です。二人でこんなことしたいですね、なんて話していたら、久山未来ポンド^{※1}が企画され、そこに呼んでいただけ、その行動力、すごいと思いました。

西村 久山町の印象はいかがでしたか。

向いている人とか。何かが足りないときに、じゃあどんな人がここに入ってきてくれたらチームとしてもっとよくなるだろうかと社会のモデルとして、ラグビーが役に立っていると思います。

西村 バレーボールでレシーブ専門のリベロという新しいポジションが生まれたことは画期的でした。それまでは、背が高い方が有利と思われていたのが、レシーブに特化することで身長に関係なく活躍することができるようになりました。チーム全体で誰かが苦手なところは得意な誰かが補う、まちづくりも同じで、それぞれの状況に応じてみんなが活躍できる場所を示せるかどうかが大切だと考えています。そのときに、私もバレーボールの経験が生きていると思えますね。

身体的コミュニケーションが直感力を鍛える

西村 からだ全体を使って相手とコミュニケーションする能力、言い換えれば直感のようなものが鍛えられるのもスポーツの良さだと思います。

廣瀬 そうですね。スポーツは、瞬時に判断しなければならぬ場面など、言語だけでは、本当に深いところまでつながっていないとうまくいきません。日頃から対話や身体的コミュニケーションを重ねることで自然と鍛えられると思います。

西村 技術が進歩することで、身体的な

廣瀬 福岡市からすごく近いのに、田園風景などの自然が豊かでこはんもおいしく、こんな素敵な場所があったのかという印象でした。町の子どもたちが喜んでくれてうれしかったですし、保護者や関係者の方々がみんな子どもを支えていこうという雰囲気を感じました。僕の方が豊かになって帰りました。とても楽しかったです。

目標を持つことの大切さ

西村 廣瀬さんほどではありませんが、私もバレーボールを本格的にやっていたこともあり、スポーツ選手が引退後、新たなことに挑戦していることに勝手にシンパシーを感じていました。今は何をやりたいと思われていますか。

廣瀬 スポーツがもつと社会で価値があることを示したいと思っています。特に、人材育成に興味があり、ワークショップなども開催しています。

西村 スポーツで経験してきたことと今の仕事に通じるものはありますか。

廣瀬 ラグビーにはたくさんさんのポジションがあり、人種も背景も違う中で勝つという一つの目標に向かいます。僕自身やることがないポジションもあります



コミュニケーションの場が少なくなってきたと感じますね。本町で取り組んでいる「ひさやまてらこや^{※2}」や「久山未来ポンド」は、そのような直感力を興味があることを通じて磨くプログラムとして企画しています。私は、人との出会いから、自分の役割や得意なことが見えてきました。そうした機会が町の中へ増えていくと、面白いことが起こりはじめると思っています。

廣瀬 わくわくしますね。スポーツに限らず、出会う方それぞれが挑戦したいことを一緒に実現していけるような、開かれた機会や場をつくっていききたいですね。ぜひ一緒にやりましょう。

注 釈
※1 久山未来ポンド…世界とつながり、未来に挑戦するきっかけをつくる町独自の学びのプログラム
※2 ひさやまてらこや…デザイン思考で創造力(生きる力)を育む町独自の学びのプログラム

が、それぞれが役割を果たした結果、トライにつながったときの喜びはとても大きいし、自分一人ではできなかったところに到達できた満足感があります。仕事でも、そのようなことができればいいなと思っています。

していくことが大事だと思って行動していました。うまくいかないのをみんなのせいにするのではなく、リーダーとしての自分のやり方が悪かったのではないかと考え、対話していく。それを徹底することで目標が明確になり、伝わることもあったと思います。

スポーツは社会のモデル

西村 ビジネスや社会の中では、スポーツのように、明確なポジション名や役割がない場合も多いですよ。

廣瀬 仕事するときもラグビー的な視点で見えますね。ポジションで言ったら、この人何番だな、みたいに。足が速いから最後のトライ取ってくれる人とか、スクラム組んで土台を作ってくれる人とか、現場でプレイするよりも監督の方が



ひろせ としあき 廣瀬 俊朗

1981年大阪府生まれ。5歳からラグビーに打ち込み、高校日本代表や東芝ブレイブルーパス、日本代表でキャプテンを務める。2016年現役を引退後、2019年ビジネス・ブレイクスルー大学大学院卒業MBA取得。同年、株式会社HiIRAKUを設立。2020年10月より日本テレビ系ニュース番組「news zero」に木曜パートナーとして出演中。著書に『なんのために勝つか。ラグビー日本代表を結束させたリーダーシップ論』(東洋館出版社)などがある。